

読んでみよう 解いてみよう
さん太のワークシート

岡山市の土木建設業の会社が、植物の茎でできた「草ストロー」を販売しています。記事を読み質問に答えましょう。

藤田興業が販売する草ストロー



茎のストロー製品化

土木建設業の藤田興業（岡山市南区藤田）は、植物の茎でできた「草ストロー」を販売している。プラスチック製品による海洋汚染対策で代替素材に切り替える「脱

プラ」の動きに対応。製品の普及を目指し、新型コロナウイルス禍で苦境にある飲食店への寄贈活動も進めている。（鈴木省吾）

草ストローは、ベトナムで民芸品などの材料に使われるカヤツリグサ科のレピロニアが原料。中が空洞になった茎を現地の委託工場ですらで長さ20センチに切りそろえ、内部の節を取り除いて乾燥させ、殺菌処理して製品化した。50本入り税別600円。木材チップを原紙にして作る紙製ストローと比べても、製造工程での二酸化炭素排出量が少なく、土に戻る期間は3分の1程度の約1カ月と生分解性が高い。水に漬けてもふやけたり、折れたりせず耐水性に優れる。農薬などは使っておらず、民間の検査で食品衛生法の基準も満たしている。

「脱プラ」対応 高い生分解性

藤田興業 普及目指し飲食店寄贈も

同社は造園やのり面の緑化保護のほか、日用品の企画販売も手掛ける。国連が提唱するSDGs（持続可能な開発目標）の推進に向け、2019年に植物由来のストローブランド「Kami St」を立ち上げ、紙製の販売をスタート。草ストローはより環境負荷の少ない製品として企画し、今年3月に売り出した。価格が紙製の2倍、プラスチック製の10倍程度と割高なのが普及のネック。主なターゲットの飲食店はコロナ禍で疲弊していることから、同社は社会貢献の一環で、50本入り3セットずつを岡山県内外の10店に寄贈した。今後要望があれば100店程度に贈る。

早瀬丈太郎社長は「普及が進めば生産コストを低減できる。まずは飲食店に試してもらい、利用客らに理解を広げていきたい」と話す。

藤田興業は1969年創業、資本金3200万円、売上高11億3千万円（21年6月期）、従業員約30人。

7月28日付、山陽新聞地方経済面

Q1 ★★★★★

この会社が販売している植物の茎でできたストローは、他のストローと比べて、どんな良い特徴がありますか。第3段落から抜き出しましょう。

Q2 ★★★★★

この会社はなぜ、茎のストローの販売を企画したのでしょうか。第1、4段落、見出しを参考に答えましょう。

Q3 ★★★★★

環境のために、プラスチック製品を減らす動きが広がっています。皆さんは、環境のことを考えて何か行動していることはありますか。周りの人と話し合ってみましょう。



環境のために工夫をしている会社や商品がいっぱいあるよ。新聞で調べてみよう。

★の数には問題の難易度を表しています。